

「知」の現場 9

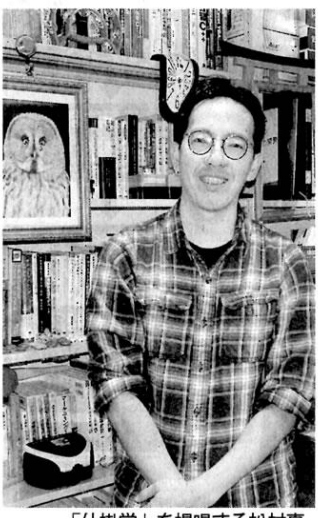
「仕掛け」が社会を動かす

大阪大学教授 松村真宏さん

変えるきっかけ

ごみ箱の上にバスケットゴールを設置するとポイ捨てが軽減、ラインを引くことで駐輪場や本棚が整然とする…。大阪大学大学院経済学研究科教授の松村真宏さん(43)は、絶妙な仕掛けで人の行動を自然に促す「仕掛け学」の理念を提唱し、企業や自治体などと連携しながら、社会のさまざまな問題解決を目指している。「始まったばかりの学問ですが、仕掛けを通して世の中をもっと良くできるはず」と話す。(横山由紀子)

大阪大学医学部付属病院(大阪府吹田市)の入り口に昨秋、ローマの著名な彫刻「真実の口」を模したアルコール消毒器が登場し、話題を集めた。口の中に手を入れると消毒液が自動噴射する仕組みで、年末まで設置。以前のポンプ式の消毒液は利用が来場者の1%に満たなかったのに対し、15%に増えたという。



「仕掛け学」を提唱する松村真宏さん。研究室は遊び心あふれるグッズで彩られている
＝大阪府豊中市の大阪大学

「仕掛けは、人の意識や行動を変えるきっかけ。つい行動したくなる、そんな仕掛けを施し、仕掛けとして効果を探っています」

日常を研究対象に

もともと人工知能の研究者としてコンピューターを使ったデータ分析に取り組んでいた。だが、「鳥のさえずりや木々の葉ずれの音など、世の中のものごとの現象はデータにならないう」とデータ分析に限界を感じていた。もやもやしていた平成18年、遊び

地上10mほどの高さで固定されたその筒は、望遠鏡のような形で真中に穴が開き、のぞきたくなった子供たちが集まっていた。自らもぞいてみると、穴から見えたのは精巧にできたソウのふんの作り物。「動物以外の見どころに気づいてもらうための仕掛けだったのです」

研究室外で効果実証

仕掛け学は研究室を飛びだし、実社会で広がりを見せている。佐賀県唐津市では、車の社会の住民を歩かせるための仕掛けを満載したイベントを実施。さらに、公共交通機関やスーパーマーケット、病院、自治体などとの共同研究が進んでいる。「企業秘密があるのに詳しくは明かせませんが、各方面から問い合わせが多く来ています」と松村さん。



ごみが集まるバスケットゴール付きごみ箱



ファイルボックスの背に引いた斜め線の仕掛け。思わず線をそろえたいくなる(松村さん提供)

「仕掛けによって計算機で扱える世界の外、つまり日常生活空間を研究対象にしよう」と思い立ったという。以来、仕掛けの事例収集や検証などを行っているが、新しい分野だけに学会がなく、「研究者としてははくち」。それでも仕掛け学に打ち込むのは「エコロジーにつながった

まず社会に目を向け、問題を探し、解決するにはどうすればいいかを考える。「仕掛けは、いわば問題解決装置。仕掛け学を通して、自分で社会を変えられることができる。そこに気づいてほしい」と話している。次回回は2月10日掲載